

---

# 良いウソ、悪いウソ

すいーとぽてと

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

良いウン、悪いウン

### 【Nコード】

N7170F

### 【作者名】

すいーとぼと

### 【あらすじ】

小学3年生の晋也君は、幼馴染の潤君が最近ウンばかりついているのが嫌で仕方がなかった。晋也君は、当初ウンについても良いこととは何もないと思っていたが、ウンはウンでも良いウンと悪いウンがあることに気づき始める。

小学3年生の晋也君と潤君は、家が近所でクラスも同じなので、毎日一緒に遊ぶぐらい仲良しです。でも、晋也君は、最近疑問に思うことがあります。それは、最近潤君が、よくウソをつくからです。晋也君は、ウソをつくことは、悪いことだとお父さんとお母さんにいつも言われていたので、潤君がなぜウソばかりつくのかわかりませんでした。

先週、体育の時間に、かけっこをした時も潤君はウソをついていました。潤君は、幼稚園の頃からかけっこが得意で同学年の子には今まで負けたことがありませんでした。しかし、今回は先月転校してきたばかりの隼人君に負けてしまいました。潤君は、

「今日は足が痛かったから、調子が出なかった。」  
と後ろ頭をボリボリと掻きながら言っていました。

晋也君は、潤君がウソをつく時いつも後ろ頭をボリボリと掻くので、またウソをついているとすぐにわかりました。クラスのみんなも潤君のウソをつく時の癖を知っていたので、そんな潤君を見て笑って、馬鹿にしていました。

昨日も潤君はウソをついて先生を困らせていました。休み時間以外で遊んでいる時に潤君は、足を捻挫してしまいました。足がすぐ腫れていたので先生は、潤君に保健室に行くように言いましたが、潤君は、

「全然痛くないから大丈夫。」  
と後ろ頭をボリボリと掻きながら、笑って言いました。

その後先生は、潤君を無理やり引っ張って保健室に連れて行きました。

晋也君は、潤君がウソばかりつくのが、嫌でした。ウソをついても何も良い事はないので、潤君には、ウソをついてほしくありませんでした。

今日、十二月二十二日の給食には、みんなが楽しみにしているケーキが出る日です。2学期最後の給食には、毎年少し早めのクリスマスケーキが出ます。クラスの間は、嬉しそうに給食当番の子からケーキを受け取り、お盆にのせて自分の机に運びました。

そんな中、晋也君はケーキを受け取る時に誤ってケーキを床に落としてしまいました。今日はクラス全員が出席していたので、ケーキは一つも余りがありませんでした。晋也君は、ケーキが食べられないことよりもケーキを落としてしまったことが情けなくて、目に涙が溢れてきました。そんな晋也君を見て、クラスの間は、面白がって笑いました。

すると、潤君が晋也君の方へ近づいて来て、晋也君の肩を軽く叩いて言いました。

「俺、ケーキ好きじゃないから晋也君にあげるよ。」

潤君は、後ろ頭をボリボリと掻きながら笑っていました。そんな潤君の姿を見て晋也君は、涙が止まらなくなりました。

結局、晋也君は潤君のケーキを半分だけ貰うことにしました。今日食べたケーキが今までに食べたケーキの中で一番おいしいと晋也君は思いました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7170f/>

---

良いウソ、悪いウソ

2010年10月21日22時39分発行